

## 事業間連携砂防等事業再評価調書

路線・河川等名		くさお 草生川	事業名	事業間連携砂防 等事業	補助・単独の別	補助
事業主体		京都府	事業箇所（区間）	きょうとしさきょうくおほらくさお 京都市左京区大原草生町 地内		
事業概要	目的	<p>草生川は京都市左京区大原の山間に位置し、流域面積約 0.95km<sup>2</sup> で人家 38 戸、旅館 1 戸、府道草生上野線や市道を保全対象とする溪流である。また、谷出口付近には観光地として有名な「寂光院」があり、特別警戒区域内に人家が集中している。</p> <p>台風による大雨や近年多発する局所的な集中豪雨等により土石流の発生が懸念されることから、土砂災害の被害軽減を図り、地域住民や観光客等の安全、安心を確保するため、土砂災害対策工事を実施する。</p>				
	内容	<p>砂防堰堤 N=1 基、溪流保全工 L=105m、工事用道路工 L=360m 全体事業費 : 7.0 億円</p>				
	上位計画等	京都夢実現プラン				
	進ちょく状況及び今後の見込み	<p>現在、工事用道路の整備及び砂防堰堤工に着手しており、今後、砂防堰堤工の完成に向けて工事を実施する見込みである。(令和 3 年度までの事業費約 4.5 億円)</p>				
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等の変化	<p>現在、流域内において砂防設備は未整備であり、今後の豪雨等により土石流が発生した場合には、保全対象である周辺の人家 38 戸、旅館 1 戸、府道、市道が埋塞する恐れがあるため、地域住民や観光客等に与える影響は大きい。</p>				
事業の有効性	事業の投資効果及びその要因の変化	<p>土石流による土砂災害から下流に存在する人家等、府道、市道を保全し、人命を守る事業であり、投資効果は大きい。</p>				
事業の効率性等	コスト削減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<p>砂防堰堤工を施工する中で、地形の改変を最小限に抑え、自然環境への負荷軽減に努める。</p> <p>現地発生土を他工事に積極的に流用調整することで他工事を含めた総事業費のコスト削減を図る。</p>				
総合評価		<p>本事業は、土石流による土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から引き続き事業を継続する必要がある。</p>				

淀川水系 草生川 事業間連携砂防事業  
くさおかわ きょうとしさきょうく おおはら くさおちょう  
 京都市 左京区 大原 草生町

◎事業目的

草生川は京都市左京区大原の山間に位置し、流域面積約0.95km<sup>2</sup>で、人家38戸、旅館1戸、府道草生上野線や市道を保全対象とする危険渓流である。また、谷出口付近には観光地として有名な「寂光院」があり、特別警戒区域内に人家（宿泊施設を含む）が集中している。

梅雨時期や台風による大雨や、近年多発する局所的な集中豪雨等により土石流の発生が懸念されるため、本対策事業の実施により土砂災害の被害軽減を図り、地域住民や観光客等の安全・安心を確保するものである。

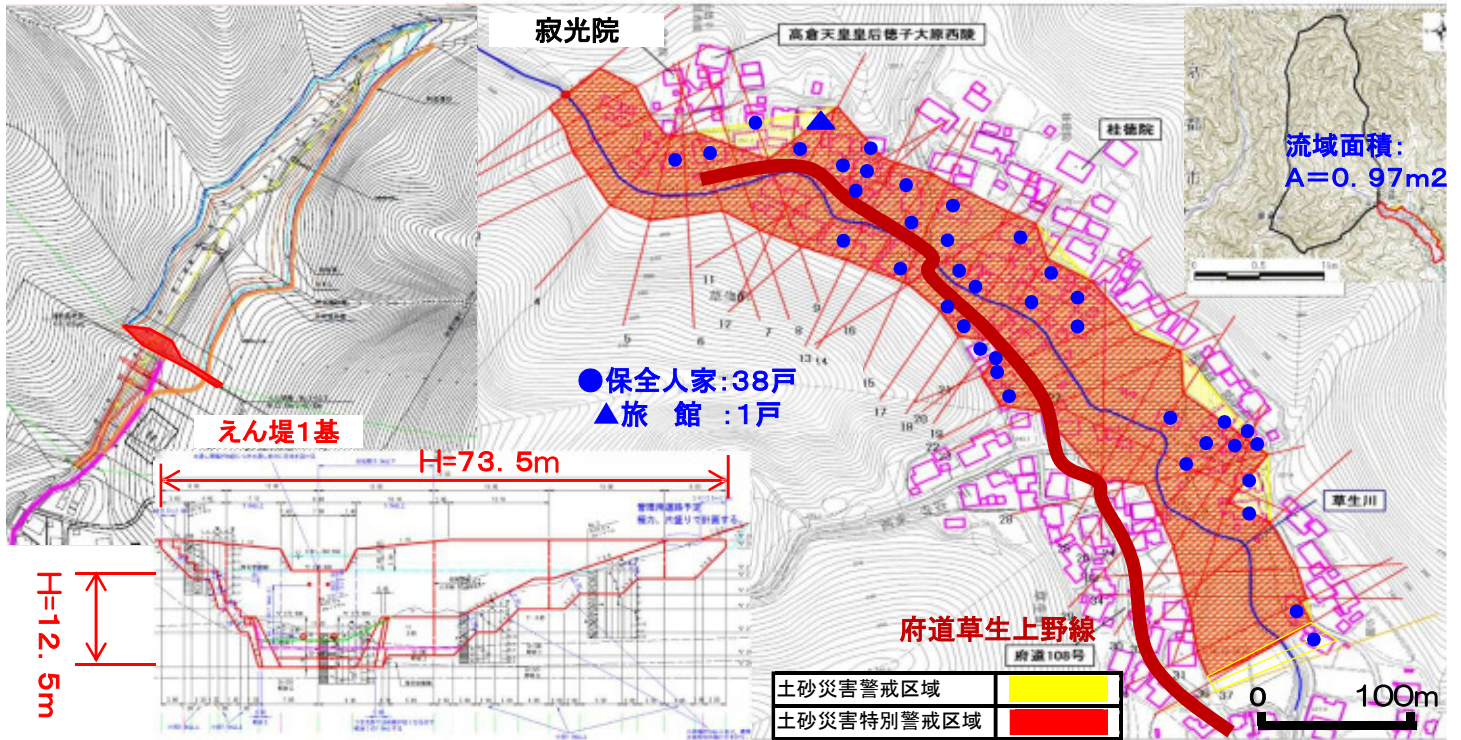
◎事業概要

全体計画	R3年度までの実績	R4年度計画
H25～ 調査、設計、用地補償 砂防堰堤1基 総事業費 700百万円	調査、設計、用地補償 砂防堰堤工 管理用道路工 事業費 448百万円	砂防堰堤工

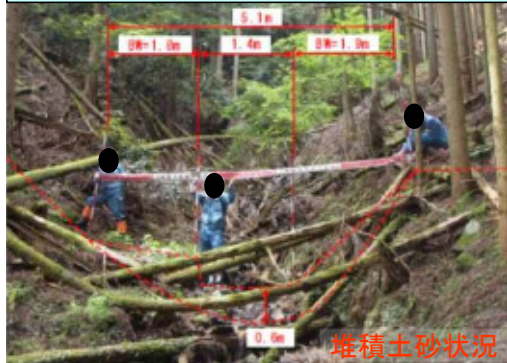


◎事業効果

人家38戸  
 旅館1戸  
 府道草生上野線295m  
 市道670m



渓床の荒廃状況



保全対象



『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和4年2月25日
作成部署	建設交通部砂防課

事業名	草生川 事業間連携砂防等事業	地区名	京都市左京区大原草生町地内
概算事業費	7億円	事業期間	平成25年度～
事業概要	砂防堰堤、溪流保全工、工事用道路工		
目指すべき環境像	事業箇所周辺は、観光地や豊かな自然環境があり、景観への配慮が必要である。事業実施に当たっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な環境の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。		
関連する公共事業	なし		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO <sub>2</sub> 排出量等)		溪流が荒廃しており、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。市内で指定希少野生生物をはじめとした希少種が確認されている。	砂防堰堤工を整備することで、土砂災害の原因となる溪流の土砂移動を抑制し、現地地形の保全を図り、生態系の維持に寄与する。野生生物の個体の生息又は生育への影響が最小限となるよう配慮する。	
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	○			4
	野生生物・絶滅危惧種	○			3
	生態系	○			3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン		溪流下流に人家、観光地等が位置しているため、工事期間中は工事車両による騒音・振動を抑制する必要がある。また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音・低振動機械を使用することを原則とする。また、建設発生材は当該工事や近隣の公共工事や民間工事と調整し、再利用に努める。	
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			3
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	○	当該溪流周辺は、京都市風致地区条例における風致地区であり、地形の改変を最小限とし、景観へ配慮する必要がある。地元住民に工事の周知を行い、本事業の意義を共有し理解を促す必要がある。	材料の選定においては、地域の自然環境との調和を図るよう努める。地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働につながるよう検討する。	4
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働	○			5
その他					

外部評価	
------	--